

## 協働テーマ

記録補助ツール等を活用して適時適切な情報共有を図り、医療の質・患者サービスの向上につなげたい!

## ■ 現場課題

## 場所

東京都立多摩北部医療センター

## 現場課題

他職種・多人数が関わる医療現場で適時適切に情報共有し、チーム全体でフォローできるような仕組みを構築したい。  
処置内容などをテキスト化することで、医療の質・患者サービスの向上につなげたい。

## ■ プロジェクト概要

目的  
(解決策の方向性)

- ・グループトークでいつでも細かい情報共有が可能
- ・複数のトークルームを使い分け、他職種・多人数が交わる現場で部門を跨いだ連携が可能
- ・チャット、文字起こしのテキスト化による医療の質・患者サービスの向上

## 取り組み内容

2024年2月～3月に取り組みを実施。  
6西病棟に携わる看護師、看護助手、クラーク、薬剤科、栄養科、医師、リハ科など30人以上がBONX WORKを活用し、病棟内におけるコミュニケーションを実施。

複数のトークルームを作成（病棟全体、看護師のみ、看護師⇄医師、看護師⇄薬剤師など）、状況に応じたリアルタイムの会話による情報共有を実現。  
またチャット機能等を使った申し送りにより、共有忘れの防止にも貢献。

## 成果

- ・看護師の歩数が平均20%減。1日で約2,500歩、20分以上の移動時間の削減に成功
- ・個室で状態悪化した患者さんの情報を瞬時に共有、応援要請ができた。緊急時の迅速な医療処置の対応に繋げることができた。



病棟クラークが対応している様子



病棟で看護師が業務している様子



病棟でのイヤフォン管理状況